

## 2021 年度冬期地区交流会報告

昨年は緊急事態宣言があり中止となりましたが、今年は通常通り「焼肉ビジネスフェア 2022」に併せて、1月18日（火）の東北・関東・甲信越地区を皮切りに全国5箇所（札幌、東京、愛知、京都、福岡）で交流会が開催されました。

その「焼肉ビジネスフェア」も2日間で14,529名とコロナ禍の影響で例年ほど来場者数は多くありませんでしたが、相応に盛り上がりました。

今回の交流会は、東京、京都は予定通り1月中に開催出来ましたが、予定期間中にまん延防止等重点措置が延長されたこともあり、2月に予定していた交流会は全て3月初旬に延期して行いました。交流会の参加者総数は、正会員のべ85名、賛助会員のべ214名、スタッフ等を含め311名となり、これもコロナ禍の影響が出ました。

各地区を代表する理事や総代による開会宣言で交流会が始まりました。

冒頭、金 信彦 協会会長による挨拶、この1年を振り返ってコロナ禍での対応や協会の事業活動報告がありました。

次に且専務理事より焼肉業界情勢報告として、JF（一般社団法人日本フードサービス協会）の会員売上動向、牛肉の国別輸入状況や和牛の国別輸出状況などの説明がありました。

続いて「第6回焼肉協会の検定試験」の結果について田中担当理事より報告がありました。第7回については11月に予定をしているが、案内は夏期の交流会の頃に行うとの話もありました。

参加した正会員全員から近況報告がなされ、昨年から今年にかけてのコロナによる影響や、講じた具体的対策などの話がありました。また、賛助会員から1分間スピーチが行われ大いに盛り上がりました。

夏期交流会は6月～7月に計画をしていますが、その時にはコロナ問題がほとんど収束し、多数の参加者でコロナ以前の交流会になることを祈念しています。

皆様、今年度冬期地区交流会に参加いただきましてありがとうございました。